

令和4年度 群馬県立農林大学校評価システムシート

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成						
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行					達成度	
							A 100% B 80%以上100%未満 C 60%以上80%未満 D 60%未満	
番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。	・学生にとって分かりやすい授業の実施	・授業評価に基づく授業方法の改善 R4:コース専門科目の授業アンケート (R3:教養科目・共通科目)				
		2 課題解決型の研究に取り組み、主体的に学ぶ力を育んでいる。		・よりよい授業のための職員の資質向上 (職場研修、派遣研修)				
		3 1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育み、人間力を身につけている。	・学生がやる気と自信の持てる教育	主体的に学ぶ力を育てる アクティブラーニング型の授業導入 (授業の1/3で実施)				
		4 農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し取り組み、経営力を身につけている。		・課題研究・意見発表等への取組の強化 (全国大会出場を目指す)				
		5 国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。						
		6 平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」が農林大に設置された。IoTやICT、DXを活用した最先端の技術を授業に取り入れることにより、地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。						
		7 新型コロナウイルスのまん延により、新しい生活様式に対応した教育を実践している。						
		8 5月2日に公布された「みどりの食料システム法」に基づき、県では、持続可能な農業(特に有機栽培)の取組を強化し、有機栽培に取り組む生産者の増加を目指すこととした。						
				・国際水準のGAPを実践 各コースで農林大GAPの内部審査を実施				
				・実習等におけるリスク管理意識の向上				
				・スマート農業の実践 ・DX活用による効率的な農業の実践				
				・6次産業化学習の強化 販売学習、地域等と連携した商品開発、オリジナルパッケージ作成				
				・有機栽培の担い手育成 取組のためのロードマップ(計画)作成(研修部共通)。 有機栽培者による講演会を実施				

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション能力の向上 1分間スピーチ</li> <li>・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施</li> <li>・学業優秀者、生活態度優秀者等の表彰</li> </ul>				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の基本を身につける</li> <li>・地域、外部機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む教育の実践</li> <li>・心の健康相談の実施</li> <li>・学生、職員一体となったあいさつ運動の実施</li> <li>・地域貢献等 箕輪城周辺の環境整備 地元小学校との交流 子ども食堂との連携による食育</li> <li>・農業技術センターとの連携による害虫発生予察情報(果樹関係)の提供</li> <li>・イノベーションファームの活用 農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及</li> <li>・農林大学校創立100周年記念事業に向けた準備</li> </ul>				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX活用による効果的な学習の実践</li> <li>・ICTを生かした新たな授業方法の展開</li> <li>・Webによる発表会や就職試験等への対応強化</li> <li>・寮における学習環境の改善</li> <li>・キャンパスの環境美化</li> </ul>				
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスに対応した学校運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の継続を基本に、警戒度等に応じた指導体制の見直しや教育環境、施設環境の整備</li> </ul>				
		(数値目標と評価)		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上</li> <li>◎アクティブラーニング型授業の導入 8科目(各コース1科目以上)</li> <li>◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上</li> <li>◎懸賞論文等への応募者(森林コース除く) 1年生 100%</li> </ul>				

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
2	実績の上がる学生募集の実行	1 少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRによりここ数年8割程度を確保している。(平成31年度86名、令和2年度83名、令和3年度78人、令和4年度82名・定員100名)	・農林大学校のPR	・新型コロナウイルス警戒レベル等に対応したオープンキャンパスの開催  ・県内高校への学生募集訪問 幹部職員等による学校訪問(7月・9月)  ・情報発信の強化 学校案内やホームページによるPR (スマホ対応型への移行) イノベーションファームの活用 (最新技術が学べる施設のPR)  ・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える (学生メッセージを送付)				
		2 近年の入校生の状況は、非農家出身者が増加傾向であったが、令和4年度は68%(令和2・3年度は約76%)に減少した。						
		3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(令和4年度入校生:61%)であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農業高校等との連携強化	・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化  ・学校見学会の積極的な受入れ  ・職員派遣講義による高・大連携の強化  ・全寮制に対する不安解消(再掲) 在校生から寮生活の楽しさを伝える (学生メッセージを送付)				
	4 新型コロナウイルスのまん延により、これまでのようなPR活動が難しいため、新しい生活様式に対応した効果的な方法を検討する必要がある。							
	(数値目標と評価)			◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者120名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上  ◎高校訪問 43校 2回実施  ◎HPの更新回数 100回以上 動画の配信 10回  ◎入校生の確保 80名以上				

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見	
3	実績の上がる 進路指導の実行	1 令和3年度卒業生77人の進路決定率は100%で、内訳として、雇用を含んだ就農が26人(34%:前年29%)、JA等農林業関係団体14人(18%:同25%)、民間企業が23人(30%:同31%)、公務員合格者12人(16%:同11%)、進学2人(3%:同8%)だった。就農割合の増加と、公務員が12名と多かったことが特徴である。	(1年生) ・進路希望の把握と進路指導体制の強化	・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査  ・進路ガイダンスによる指導(2回)  ・就農・就業の促進 農林業法人説明会の開催(9月)  ・社会人としてのマナーアップ講座等の開催(2月)  ・就農、就業(林業)への支援 農林業法人、森林組合への理解を深める  ・海外研修への参加誘導  ・農業次世代人材投資資金(準備型)及び緑の青年就業準備給付金の活用					
		2 森林コースを除く就農率は、令和元年度に26%と低かったもののその後増加し、令和3年度は、42.6%まで回復した。なお、令和3年度の雇用就農率は65%である。							
		3 経営者としての能力を高めるため、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。							
		4 近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。							
		5 新型コロナウイルスの影響により、企業等の経営が厳しい状況であり、採用への影響が危惧される。	(2年生) ・きめ細やかな進路別指導	・就農者、雇用就農者、就業者への支援 農林業法人の情報収集と分析指導 就農・就業に向けた学内企業説明会の開催(9月) 関係機関との連携強化(ハローワーク等) 農林業法人協会、農業経営士、農村生活アドバイザーとの連携  ・海外研修への参加誘導  ・就業後の職場定着に向けた取組  ・新型コロナウイルス禍における就活指導 Webによる企業説明会、面接等の指導  ・農業次世代人材投資資金(準備型)及び緑の青年就業準備給付金の活用  ・就職活動状況の把握と支援					
		6 企業の求人方法、会社説明会、入社試験が、紙、対面からWebを利用したものに急速に変わりつつある。	・専門資格取得教育の強化	・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 日本農業技術検定2級 他					
		(数値目標と評価)		(2年生) ◎進路決定率 100%  ◎就農率 40%以上  ◎林業関係の就業率 60%以上  ◎日本農業技術検定(2級)の資格取得者割合 30%以上  ◎合格率 毒物劇物取扱者 30%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 農業機械系資格 100% 狩猟(わな猟)免許 100%					

番号	重点項目	現 状	評 価 項 目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 令和3年度の農業実践学校は、定員136名を超える171名の応募があり、書類選考と面接により131名の入校が決定した。新型コロナウイルス対応のための職員減や緊急事態宣言中の分散研修もあったが、124名が修了した。なお、野菜専門技術課程の修了生は、全員が営農計画を策定し就業することができた(予定含む)。また、修了3年後(平成30年度実践学校各課程修了者)の就業状況は、88%の方が農業に従事している。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・新型コロナウイルス対策を講じた研修の実施  ・研修生の確保に向けた取り組み ニーズに対応した課程の充実  ・有機栽培の担い手育成 取組のためのロードマップ(計画)作成(農林部共通)。  ・有機栽培ほ場整備に向けた準備  ・就農に向けた体系的な研修の実施 各課程の修了者について就業状況調査を実施  ・JA等と連携した担い手の育成 JA、市町村への実践学校PR				
		2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。そのうち免許取得研修は、新規導入トラクターの効率的な運用により、日数を短縮して実施している。なお、道路運送車両法の運用緩和により、免許取得研修の希望者が多くなっている。	・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・新型コロナウイルス対策を講じた研修の実施  ・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 免許取得研修の効率化  ・スマート農業機械を用いた研修  ・農作業安全研修等の実施 就農者育成のため、農業事務所、JA等と連携した研修の実施				
		3 令和3年度の公開講座は、前後期を対象を野菜に絞った3講座を予定していたが、新型コロナウイルス対策の影響で全て中止となった。令和4年度は、下期に感染状況を考慮して1回開催する。	・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・新型コロナウイルス対策を講じた講座の実施  ・職員の専門性を生かした講座の実施				
		4 5月2日に公布された「みどりの食料システム法」に基づき、県では、持続可能な農業(特に有機栽培)の取組を強化し、有機栽培に取り組む生産者の増加を目指すこととした。(再掲)						
	(数値目標と評価)			◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 90%以上  ◎実践学校研修生の定員確保 100%  ◎実践学校修了時の就業率 野菜専門技術課程 100% 実践学校全体 95%  ◎実践学校修了3年後の農業従事率 80%  ◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100%  ◎スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 17回/188名  ◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 20回/200名  ◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上				